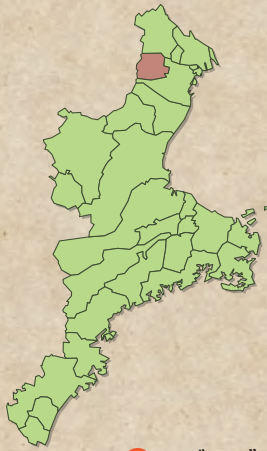


こもの 菰野町



- ① シデコブシ自生地
- ② 五百羅漢
- ③ 御在所岳と湯の山温泉
- ④ 千種演習場と幻の特攻用飛行場
- ⑤ マコモ(真菰)—— 全域



天然 記念物

菰野町

じせいち シデコブシ自生地

シデコブシは日本の固有種で、岐阜・愛知・三重のごく限られた地域の低地・低湿地に自生しています。

シデコブシは、過去の気候やその他の環境条件の変化に耐えて生き残った植物です。また、人間の営

みによる里山保全によって、生き残ってきたとも考えられます。

田光のシデコブシ及び湿地植物群落は、天然記念物であり、保護管理していく必要があります。

シデコブシは、サクラの開花とほぼ同時期の3月末から4月初めに開花します。花びらは、細長く散開したような形状で、ほのかに香りのある淡紅色や白色の弁の多い花を咲かせます。



シデコブシ (菰野町提供)

【→P 110*28】

■ 自然豊かな環境を大切に守り、次の世代に引き継いでいくために、今できることを考えてみましょう。

名勝

菰野町

ごひゃくらかん
五百羅漢

竹成五百羅漢は、県道田光・四日市線と千草・永井線の交差する竹成集落の中心にあります。1852（嘉永5）年2月に竹成出身の照空上人（神瑞和尚）が建立を發願し、桑名の石工・石長であった藤原長兵衛一門の手によって、1866（慶応2）年に完成したものです。1876（明治9）年の伊勢暴動により大日堂が焼失し、やがて五百羅漢のことも人々から忘れられ荒廃していきました。

しかし、1919（大正8）年、境内に竹成米の発見者松岡直右衛門の顕彰碑が建立されたことをきっかけに、整備されて今日に至っています。

小高く盛った土山の上に無数の石像が並び、座っているもの、立っているもの、空を仰いでいるものなど、各像各様の姿が見られます。大日如来をはじめ、四方仏、釈迦如来、普賢菩薩、七福神、役の行者、苦行の釈迦、天照大神、猿田彦、羅漢像など、石仏像の種類は変化に富んでいます。これらの石像からは、何かを語りかけてくれそうな親しみ深さを感じることができます。



五百羅漢（菰野町提供）

【P110*28】

■ 全国各地にある五百羅漢について調べてみましょう。

自然

菰野町

ございしょだけ
御在所岳と湯の山温泉

鈴鹿国定公園は、三重県と滋賀県の県境となっている鈴鹿山脈一帯に広がる国定公園で、1968（昭和43）年に指定されました。鈴鹿山脈は、通称セブンマウンテンと呼ばれる海拔1000～1200mの高さの山々が中心となっています。

中でも特にロープウェイで登頂できる御在所岳（1212m）は、四季を通じてたくさんの観光客を迎えています。またこの山には、キリンマミドリシジミやニホンカモシカ【→P104】、ブナの原生林、草本植物群など、珍しい生物がたくさん生息しています。

ふもとの湯の山温泉には、三滝川の渓谷沿いに旅館街があります。一帯は名古屋・大阪といった大都市圏とのアクセスに優れ、豊かな自然にも恵まれているので、レクリエーション、レジャー、スポーツの拠点として発展しています。温泉街には情趣のある旅館があり、文豪志賀直哉も滞在し、短編『菰野』を執筆しています。



御在所岳（菰野町提供）

【→P110*28】

■ 県内にある国立公園、国定公園について調べてみましょう。

歴史

菰野町

ちくさ まぼろし とっこう
千種演習場と幻の特攻用飛行場

へいほう じつだんしゃげき

兵砲の実弾射撃の訓練が行われていました。この演習場は、当時の千種村の村民たちの協力によって建てられ、諸物資の調達なども任されていました。終戦までの35年間続いた演習場も、今ではゴルフ場用地となり、他は自然豊かな山林の姿に戻っています。

1945(昭和20)年の春、現在の竹永小学校から南に広がる田畑に、特攻隊の出撃する飛行場(幅150m・全長約3000m)の建設が行われました。完成後、一機の特攻用戦闘機が飛来しましたが、実際に戦闘に使われることなく終戦を迎えました。現在この場所は、緑豊かな田園風景が広がっていますが、清掃センター近くのテレビ塔が立っている丘に、竹永陸軍特攻用飛行場の指揮所用防空壕が2つ残っています。



竹永陸軍特攻用飛行場跡(三重県教職員組合提供)

- 県内に残る防空壕などの戦跡について調べてみましょう。

特産物

菰野町

まこも
マコモ(真菰)

マコモはイネのなかまで、昔から日本各地の池や沼、川岸などに生えていて、稲作が伝来する弥生時代までは、人々の食糧とされていました。マコモの草丈はおおよそ1~2mになり、実をつけます。形は6千万年から1億年前も同じであったことが、化石の発見によって確認されています。

若い茎にマコモ黒穂菌がつくと、茎が柔らかく大きくなって、白く細いタケノコのようになります。これをマコモタケといい、中国や日本では食用とされています。食物せんいやビタミンなどをたくさん含み、健康や美容によいことがわかっています。

マコモは、菰野の町名にゆかりのある植物といわれています。郷里制の頃、菰野は「伊勢国三重郡葦田郷」の中の薦野で、伊勢神宮の神領地でした。そこは、マコモがいっぱい生い茂る野原だったようです。その後、住んでいた人たちが、その野原を耕して田や畑にかえていき村ができ、マコモの野原であったことから「菰野町」という名前がつけました。このマコモは、菰野の名のゆかりとして、菰野にとって大切な植物なのです。



マコモ(菰野町商工会提供)

【→P110*28】

- みなさんの地域にある特産物について調べてみましょう。